

ろう者と聴者が共につくる デフ・パペットシアター・ひとみファミリー人形劇

一寸法師

いっすんぼろし



2018年、
台湾で公演してきました！



デフ・パペットシアター・ひとみ

DEAF PUPPET THEATER HITOMI

〒211-0035 川崎市中原区井田3-10-31 公益財団法人現代人形劇センター内

TEL: 044-777-2228 FAX: 044-777-3570

URL: <http://deaf.puppet.or.jp/> E-mail: deaf@puppet.or.jp

ごった煮のような人形劇を！

作・演出 宇野小四郎

今から二百年ほどの昔、フランスのパリは近世から近代への転換期、民衆のエネルギーが渦巻いていました。その渦の中心地、「犯罪大通り」には、曲芸、ダンス、道化芝居、人形劇などのへいかがわしい興行が軒を並べて人々の人気を競っていました。

ちょうどそのころ、江戸時代の日本でも、街角や大きな神社、お寺の門前では、様々なパフォーマンスが行われていました。また縁日や祭日など、もっと大勢の人の集まるときは、見世物の掛け小屋も並びました。そこで演じられている芸能は大道芸といわれ、格式のある劇場で演じられているような立派なものではありませんが、庶民の日常と深く結び付いた親しみ深い存在でした。そこでは、語りものに、歌や踊り、かるわぎ、曲芸、人形芝居も演じられていました。

今回見て頂く人形劇「いっすんぼうし」は、そのような大道で、昔飴売りがやっていた、「飴や踊り」の人形芝居を基にして、中国式のアクロバチックな人形を遣って演じます。それにさまざまな語り、歌、踊り、曲芸を織り交ぜて、かくくり三二段の段返り舞台も仕掛け、定評のあるデフ・パペットならではのお囃しで、にぎにぎしくお目にかけます。

大道芸などと言うと、日本の古典、伝統の系譜の中では、いつもはじっこに置かれてきましたが、格式、様式に縛られ、その中で洗練された芸能が、ともすれば現代社会とかけ離れていくなかで、今も身近な親しみ深いものを残しています。おおかで、賑やかで、ごった煮のような魅力をもっています。広場や大道の魅力、そのような味わいを、現代のお客様と一緒に作り出せたらと思います。



一寸法師

いっすんぼうし

とあのしみ

交流会

手話と語りによる人形芝居

「一寸法師」

作・演出 宇野小四郎

美術 片岡昌

音楽 やなせけいこ

とざい どーざーい！
ドラと太鼓のリズムに合わせて
小さな一寸法師の大冒険の
はじまり、はじまり！



一寸(いっすん)知ってるかな。約三センチメートルの長さ。

だから一寸法師とは小さな小さな男の子のことです。

みんなから馬鹿にされ、のけものにされた一寸法師が、冒険の旅に出て、鬼を退治して、お姫さまと結婚するまでのお話を、昔からの「語り物」の調子にのせて、大道芸や「からくり舞台」を織りまぜて展開します。

(上演時間三〇分)

一寸法師の

おたのしみ交流会

「一寸法師」のお芝居の後は、出演者と観てくれた皆さんのステーション交流の時間です。

劇中のいろいろな人形たちや生演奏で使ったたくさんのお楽器、三十二段返し舞台について紹介したり、簡単な手話のクイズがあります。

一寸法師の人形のような田返りに「びよんとうさぎ」人形を使ってチャレンジするコーナーや、実際に楽器に触れる時間もぜひお楽しみください。

さあ、みんなでいっしょに「一寸法師」の世界へ！

うまくキャッチできるかな？



「おたのしみ交流会」のプログラムは、お客様の年齢や人数に応じて内容・構成が変換することがあります。ご了承ください。

(二〇～三〇分)

とくしや

三十二段返し

日本はからくり人形の宝庫でお祭りの山車からくりで代表されるように色々な形で今でも目にすることができます。

江戸時代、人形芝居にも様々なからくりが積極的に取り入れられ、芝居をよりおもしろくしていききました。「からくり」も人形に関するものだけでなく、装置についても進歩を遂げて行きました。

座敷の変化を見せるしかけは大阪を根拠地にしていた「竹田からくり」の得意の技術で「珍操千畳敷」という名で御殿の襖を次々に引き抜き、返して

いって、最後に遠近法の書き割りで千畳敷の大広間を見せた。当時、これが当たり前として地方の座でもこの技術を模倣していきました。

現在でも淡路島の福良では定式舞台で実演を行っており、観光客も見ることが出来ます。

今回の「一寸法師」の中で、この「三十二段返し」のミニチュア舞台をお見せいたします。「春夏秋冬」「風神雷神」「鬼のすもう」など次々変わる襖絵をお楽しみ下さい。

